

2018年度 春季海外研修

アメリカ・フィンドレー大学 ベーシック・アニマルハンドリングプログラム

獣医学類2年 徳宮和音

オハイオ州フィンドレーは北海道と大体緯度が一緒であり、北海道と同じかそれ以上に気温の低いところだった。3週間の基本的な生活リズムは朝5時頃に起床、準備をした後バス乗り場まで歩き、6時半にバスに乗って乗馬学科の研修場所であるファームに行き、10時まで実習。12時から15時まではpre 獣医学生の授業に参加させてもらった。それ以降はフィンドレー大学の日本語の先生であり、留学生を手厚くサポートしてくださる川村先生に手配してもらい、たくさん体験をした。

乗馬学科の実習ではウマのブラッシングや体調のチェックのやり方などを教えてもらい、乗馬もさせてもらった。私は英語があまり得意ではないが、積極的にコミュニケーションをとろうとしたり、たくさん質問したり、遠慮せず何でも言うてみるのが重要であるということを実感した。この学科の学生たちは朝早くから大変な仕事を行っているにもかかわらず、陽気でポジティブで疲れた雰囲気など一切感じさせなかった。馬房では常にカントリーミュージックが流れ、人、馬ともにリラックスできるような工夫がされていた。ここではフィンドレー大学の学生のタフさ、明るさを目の当たりにし、日々の生活を楽しくするような努力が大切であることを学んだ。

pre 獣医学生の授業では去勢や徐角手術に参加させてもらい、日本ではまだできないような実習経験を多く得られた。この授業では多くの専門的な英単語が使われた。酪農学園大学の英語のテストでも扱われる単語も多く出てきていて、意味が分かる単語が出てきたときは日本で勉強した成果を感じた。印象に残っているのは、授業をしてくれた獣医師のカーズ先生が後半の授業になるとホームワークを出してくれて先生の授業で使っている特製の教科書をくださったことだ。動物の体のつくりや特徴など獣医師になるために知っておくべき専門的なことがたくさん載っている教科書で、留学生でほんの少しの期間しかいない私たちのことも自分の生徒なのだと認めてくださった気がして本当にうれしかった。

授業以外の体験としては、動物園と水族館のバックヤードツアーをして獣医師の仕事場を見せてもらったり、動物病院の見学に行ったり、動物を保護・譲渡する施設を見学したりした。犬を保護・譲渡しているところではそれぞれの部屋を広くして犬が十分に休める設計になっていた。さらに、大型のTVで犬が主人公のアニメ映画を見せていたのは驚愕だった。どの施設も動物の生活が快適で豊かなものになるように工夫がされていて、日本の施設でも取り入れていきたい点が多々あった。

留学に行く前に私が目標に定めたのは日本とアメリカの獣医療や獣医学生教育の違いを知り、これからの学びや将来設計に生かすこと、英語力を向上させること、自分の新しい一面を発見し、少しでも自分を良い方向に変えることなどだった。これらの目標は達成できたものもあれば、これから目指していかなければいけないものもあるが、この短期間の留学で確実に未来の設計図やこれからの学びに対する気持ちの持ちようなどが変わった。

アメリカでの日々や出会った人たちを心の支えにすれば、目標に向かって頑張り続けられるように思う。留学に行って、たくさんの経験ができて本当に良かった。



△フィンドレー大学



△馬学科の実習風景



△カーズ先生の助手の学生と